様式第１号（第３条関係）

【公　開　用】

【足立区地域自立支援協議会はたらく部会】会議概要

| | |
|---|---|
| 会　議　名 | 令和２年度　第２回　【足立区地域自立支援協議会はたらく部会】 |
| 事　務　局 | 福祉部　障がい福祉センター |
| 開催年月日 | 令和２年１２月２２日（火） |
| 開 催 時 間 | 午後３時～午後４時３０分 |
| 開 催 場 所 | 障がい福祉センター　５階ホール |
| 出　席　者 | 橋本一豊 部会長、奥田眞砂子 委員、佐藤千枝 委員、松村浩平 委員、<br>加藤香織 委員、木村正枝 委員、大谷英行 委員、髙橋啓祐 委員、<br>江連嘉人 委員 |
| 欠　席　者 | 酒井紀幸 委員、根岸なつき 委員、脊尾大雅 委員、竹内淳 委員、<br>朝倉敏文 委員、 |
| 会 議 次 第 | １　開会<br>２　議事<br>（１）部会長挨拶<br>（２）協議<br>　ア　コロナ渦の働き方について（オンラインについての課題等）<br>　イ　働く時間以外の過ごし方<br>３　事務連絡<br>（１）事務局から<br>（２）障がい福祉センター所長挨拶 |
| 資　　料 | 配布資料<br>・令和２年度足立区地域自立支援協議会第２回はたらく部会次第（添付なし）<br>・令和２年度足立区地域自立支援協議会第２回はたらく部会席次表（添付なし）<br>・余暇活動についてのアンケート報告書 |

様式第２号（第３条関係）

（協議経過）

１、開会

２、議事

（１）　部会長挨拶

橋本部会長

忙しい中、会議へのご出席ありがとうございます。本日の協議はコロナ渦での障がい者の働き方、各事業所の活動状況、オンライン使用での課題を予定している。

また、余暇に関する情報では、私の方でアンケートを集めたので、結果をみなさまと共有したいと思う。今回は災害については省く。

まず 12 月 15 日の本会議の報告をする。通常の本会議であれば各専門部会の活動報告を行うが、コロナ渦で各専門部会の開催が少なかったことや本会議の時間の短縮のため、書面のみでの報告であった。

主な議題は、地域生活支援拠点をどのように整備していくか、障がい者施策はどのように進めていくかということである。地域生活支援拠点は、既存の社会資源を繋げていく「面的整備型」と複合施設を整備する「多機能拠点型」があるが、足立区では社会資源が豊富なため、面的整備型で進めていく方針である。ただし、足立区は人口も多いので、拠点数を増やす必要性があるのではないかという議論もある。

また、優先度が最も高いのは緊急時受け入れの整備であり、続いて専門性の高い人材の確保と育成、そして相談機能の充実化である。本会議で以上の報告があったので、この場でも共有したい。

（２）　協議

橋本部会長

前回は、コロナ渦での障がい者就労の支援の方法、そして困っていることについて話し合った。今回はオンラインの課題、障壁について、または戸惑いを感じていることについて共有していきたい。木村委員からどうぞ。

木村委員

まず、来所を求めないという意味でのハローワークの取組について説明する。雇用保険の認定について、4 月の緊急事態宣言発令時は郵送で認定を行った。現在も基礎疾患があるなど感染リスクがある方については郵送認定を実施している。

求人の紹介についても同様に、求職者の方から電話で応募を受け付け、紹介状を郵送する方法を実施している。

会社との面接では、ハローワークの会議室に求職者の方が来て、オンラインで実施することを始めた。

職業相談をオンラインで行うかは、これからの取り組みとなる。どれだけの人が自分のツールを利用できるか、また通常は求人票を見ながらの相談だが、オンラインでそれをスムーズに行えるかが課題である。

橋本部会長

全ハローワークで対応可能か？

木村委員

全部では無いと思うが、都内のハローワークは対応可能である。

橋本部会長

困難なこと、利用する際の障壁などはあるか？

木村委員

全員ができるわけではないので、条件を付けさせてもらっている。オンラインの方は予

約制であり、継続的にやれる方に行っている。
　オンラインを導入することにより、もともとハローワークに来所しにくかった人が繋がりやすくなった面もある。

障がい福祉センター係長
　ZOOM を使用した就職面接が増えていると聞いている。障がい者の雇用においても、当事者の PC スキルや環境整備に関する支援をしていくことを考えていかなければならないと思う。

木村委員
　現時点でハローワーク内で実施する分については、ハローワークで環境を整えているので、来所いただければ対応は可能である。
　ただし、当事者自身の PC やスマホを使用する場合もあるので、PC スキルや環境整備に対する支援が必要になると思われる。
　オンラインの使用は難しいものではないが人によってはハードルが高い。また、オンラインでのコミュニケーションにおいて、映り方についても考えていかなければならない。

江連委員
　オンラインの面接専用のブースがあるか？

木村委員
　面接用の IPad を貸し出し、会議室にて行っている。

橋本部会長
　佐藤委員のところではどうか？

佐藤委員
　当事業所では、オンラインで作業を行うことは現実的ではない。密の状態にならないように気を付けながら作業している。在宅支援も検討したが、難しかった。
　通所の出席率は 90%ぐらいであり、コロナ前と大きくは変わらない。就労定着支援については、会社側から「来ないで欲しい」と言われることもある。

松村委員
　精神障がいの方々のやり取りでは、どのような工夫をしているか？

佐藤委員
　体調は家で検温・体調確認し、チェックシートに記載してもらっている。

松村委員
　通勤に往復 1 時間かかっていたが、オンラインよって通勤時間が無くなって便利になった人もいる。ただし、基本的には在宅勤務は難しい点が多く、4 月はストレスを感じている人が多かった。日中活動の重要性も痛感した。
　当事業所はあしなみの法人の中での大きいが、オンライン利用に関して例が無いため、苦慮している。場合によっては思いきった対応も必要と感じる。
　利用者の受け入れは、３密を避ける対策をしている。午前中の利用者が多いため、現在は午後のみ新規の受け入れをしている。

江連委員
　就労移行のことを考えると、生活リズムを整えるために午前に利用するのが望ましいのか？

松村委員
　本来はそうである。そのため、午後からと制限すると受け入れの数に影響が出てしまっている。

橋本部会長
　日中活動の重要性やオンラインを活用した事例はあるか？

松村委員
　ゲームをやっている人が多く、若い人は適用しているようである。職員はデジタルに関して慣れていないので、良い例があれば教えて欲しい。

橋本部会長
　オンラインで交流会を開き、参加者がパネラーになってそれぞれが悩みを語り合ったりして盛り上がったという事例があった。

松村委員
　オンライン飲み会に近い雰囲気に感じる。

橋本部会長
　参加者の感想としては、「実際に働いている人の話が聞けて良かった」というものだけでなく、話をした人は「自分の仕事を人に説明することで仕事についての理解が深まったので今後も働き続けたいと思った」というものがあった。

松村委員
　オンライン会議だとメールを案内で送ったりするが、同じようなやり方か？

橋本部会長
　そのとおりである。今後はチラシを作ってQR コードを載せ、スマホからでも簡単に参加できるように簡素化することを検討中と聞いている。

障がい福祉センター係長
　足立区では、個人情報保護に関するリスクを重視するため、ZOOM 使用に制限がある。区の方針の中、できる範囲で使用していきたい。

橋本部会長
　現時点では、外部とのオンライン会議は可能か？

障がい福祉センター係長
　個人情報を扱わない内容、ZOOM ならば招待を受けた場合にのみ可能。

橋本部会長
　高橋委員のところはどうか？

高橋委員
　区内 5 か所に職員を派遣しているが、新型コロナによって状況は大きくは変わっていない。
　手洗いやうがいの徹底、布マスクや消毒液の配布も行っている。今現在まで発症は無い。
　例年よりも、些細なことで感情的になってしまう人が多い。何らかのストレスを抱えているように思われる。
　会議や研修はすべて中止にした。健康診断は例年新宿まで行って受けていたが、自宅の近くで受けたいという希望があり対応した。

橋本部会長
　不穏になってしまった人へのフォローは、どのように行ったか？

高橋委員
　基本的に家族へヒアリングして原因を分析し、本人・家族を支援している。

橋本部会長
　想像していた原因と違っていたことはあったか？

高橋委員

新型コロナの影響で、行きつけのお店に行くけなくなくなったことで、ストレスが溜まり不穏になってしまったというケースがあった。この件は、家族に聞かないとわからなかった。

橋本部会長

大谷委員のところはどうか？

大谷委員

2名が会社のオンライン実習を行った。1 人は体験的な実習で、当初は会社での実習を希望したが会社側から断られたため、学校の環境を整えて行った。

もう1人は採用面接を控え、一度目は訪問し、二度目は学校からのオンラインと会社訪問の半々であった。オンラインでは 1 人で黙々と作業をしなければならないが、その生徒はできた。

良かった点は、マスクは表情が見えないため、聴覚障がいのある人にとってコミュニケーションの障壁になる。オンラインではマスクを着けなくて良いため、顔を見たコミュニケーションができたことである。

ただし、文字を通してのやり取りや、スムーズにパソコンが使用できることが必要。学校教育の中でオンラインに対するスキルや環境が必須になってきており、新型コロナによって校内の ICT 化が進んだ。今後は教育現場では、生徒 1 人 1 台 IPad を持つようになっていくのではないかと思う。

他の会社はこのようなオンラインでの実習のやり方に驚いていたが、今後こちらから提案していきたい。また、オンラインの使用により、卒業生の経験談を生で生徒達に届けることも可能になるのではないかと考えている。

障がい福祉センター係長

興味深い話をありがとうございます。オンラインでの実習とは、どのようなものであったか？

大谷委員

フォーマットへの入力作業がほとんどであり、本人がわからなくなった時は、先方が遠隔操作で指導するやり方であった。登校して教室で行ったが、初めは教員がサポートしていたが、慣れたら1人で行った。内定が出たら、自宅にて行う予定である。

木村委員

オンラインに関する知識のある先生がいたのか？オンラインに関して詳しい職員は多くは無いと思う。

大谷委員

ICBT に詳しい職員がいたので、オンライン使用に関して大変助かった。

橋本部会長

奥田委員はいかがか？

奥田委員

私の息子は千葉の方で１１年間、物流関係の仕事をしている。物流の仕事はコロナ渦でもオンラインで仕事することはできないので、週５日出勤している。障がいのある子が外に出ることに対して、家族としては不安があるが、今のところ無事である。周りには、新型コロナの影響による事業縮小により解雇されたという話も聞いている。

余暇活動についてだが、息子も家に閉じこもってばかりいるとイライラするようなので、ひとりで公園など人ごみの無いところを散歩したり、自転車に乗って出かけるなどしてい

る。ただし、参加しているサークルは休止しているので、余暇活動は減っている。

支援金や給付金に関しては、知的障がいの人にとっては申請が難しいし、会社側と話し合うことも難しい。情報もみなにいきわたりにくいし、もっと申請しやすくして欲しい。

橋本部会長

親の立場からの意見、ありがとうございます。給付金に関して、意見をお願いしたい。

木村委員

会社が申請する助成金や、個人が申請する支援金・給付金などあるが、支援金・給付金に関しては、会社側がまったく協力的でないケースもある。

厚生労働省のホームページに情報を載せてできるだけ申請しやすくしたり、報道機関に情報を流したりしてはいるが、難しいようであれば直接ハローワークに問い合わせていただきたい。

橋本部会長

職種によって、いろいろ影響が違うようである。

奥田委員

知的の作業所は、オンラインでは難しい。

橋本部会長

オンラインを進められる分野とそうでない分野がある。

加藤委員はいかがか？

加藤委員

新型コロナの環境に慣れてきてしまって、密の状況になってしまうことがある。また、利用者らは外出もできないこともあり、みなストレスを感じている。

B 型の作業所なので、オンラインにそぐわない。テーブルを拭くなどの対策を利用者と協力して一緒にやっている。

橋本部会長

外出やその他の生活上で制限されることが増えることでストレスを感じてしまう利用者も多いが、どのような対策をしているか？

加藤委員

空いている時間を考えて交通機関を利用するなど、できることをやっていく。

橋本部会長

ここまで話してきて、オンラインの活用に関してのキーワードは、セキュリティへのリスクマネジメント、障がい特性への対応、情報が入ってきやすい人も苦手な人も含めて情報共有をしやすくする方法になるのではと思う。事業所ごとに、情報リテラシーの違いやセキュリティ対策の問題、障がい特性への対応などがあり、それらを考慮しながら進めていかなければならないと感じた。

後日で良いので、オンライン化に対する取り組みや課題があったら伝えてほしい。

次の協議に移る。

これまで、前年、前々年度と日中活動の必要性や働く時間以外での過ごし方の重要性についての議論を行ってきた。その中で、余暇活動の必要性が注目されてきたので地域共生の一環として、アンケートを試行的に取らせていただいた。働く障がい者の方々がどのような余暇活動を行っていて、余暇活動に対するどのような支援を必要と感じているかを調査した。配布した資料（余暇活動についてのアンケート報告書）は、１枚目がアンケート

フォーマット、続いて４枚が集計結果であるが、最終的には業者に依頼して、分析し WEB 上に公開する。当初は WEB にてアンケートを行ったが 30 人しか回答がなかったため、急遽紙でのアンケート収集を行ったところ、200 人の回答を得られた。WEB だと難しいと感じた。

アンケート結果について説明する。障がい特性については、回答者の大半は療育手帳保持者と精神障害者保健福祉手帳保持者であった。B 型や移行の事業所の回答が多かった。休日はほとんど自宅にいるという回答が多く、現在の趣味活動に関しては各々が別々の回答をしており、グラフには表せなかった。81.1％の人が余暇活動に興味があると答えており、18.9％の興味がないという人のうちの 54.5％が１人でいることが好きと答えている。参加したい余暇活動は何かという質問には、「音楽を聴く・演奏する・歌を歌う」が一番多く、次に日帰り旅行という回答であった。

最後は、参加する場合に心配することや希望することは何かという質問である。この情報は余暇活動を推進していくにあたり支援者やプラットフォーム側に依頼したり、お願いする際に重要になってくるものである。「わかりやすく教えて欲しい」「優しく教えて欲しい」「ゆっくり教えて欲しい」「付き添いが欲しい」という回答であった。足立区には支援団体が多く、またスポーツコンシェルジュもできたので、その支援者と障がい当事者とのマッチングや、支援の充実化について、アンケート結果を活用していきたいと考えている。

学校においても余暇活動に関する情報はあると思われるので、是非情報を教えていただきたい。

就労を継続していくためには余暇活動の充実が必要不可欠である。より理解を深めて、それをみなさんと共有していきたい。質問や意見などあればお願いしたい。

障がい福祉センター係長

質問 12 ではいろいろな回答が出ているが、フリーでの回答か？それとも複数の選択肢があったのか？

橋本部会長

回答数が多いものは選択肢があったものであり、少数の回答に関しては「その他」の選択肢に特記で自由記述してもらったものである。

障がい福祉センター係長

あしすとでは、毎月第 2 木曜日に夜間開室を行っている。どんなことをやりたいか質問したところ、ボランティアのような人の役に立つようなことをやりたいという答えが多かった。

橋本部会長

ボランティアは、余暇と仕事の境目である。ちなみに、勉強したいという回答の中には、株式投資に関する勉強というものもあった。

松村委員

質問 11 で「1 人でいるのが好き」とあるが、周囲がもう一押ししてサポートしたほうが良い人か、本当に 1 人がいい人なのかで違ってくる。このような人には、「こういう趣味があるよ」と具体的に提示してあげることが良いと思う。

江連委員

学校では体育と美術などの活動があるが、卒業後にも集まって活動できる場があればいいと思う。

橋本部会長
　確かにそうである。
アンケート結果の活用方法についても、今後話し合っていきたい。今後の協議事項とする。

３、事務連絡
（１）事務局から
事務局
　今年度のはたらく部会は、本日が最終である。次回は来年の 4 月以降の開催になるので、改めて連絡する。
　後日、本日の議事録の案を送付するので、内容の確認をお願いしたい。
　障がい福祉計画に関するパブリックコメントを 12 月 25 日まで受け付けているので、足立区のホームページを見て、ぜひご意見をいただきたい。

（２）障がい福祉センター所長挨拶
江連所長
　本日は忙しい中、ありがとうございました。今回の会議は、来年までの 2 年間の中間となる。新型コロナウィルスによって、働き方が狭まるのか、オンラインよって広がるのか、新たな発展があるのか、みなさんの意見をいただきながら足立区でも施策に繋げていきたいと思う。よろしくお願いします。

以上